

令和7年度丹後視覚障害者社会教育指導者研修会



令和7年11月11日（火）に、視覚に障害のある人もない人も心豊かに暮らせる共生社会の実現に向けて、様々な立場の方々がともに学び合うことを目的として、令和7年度丹後視覚障害者社会教育指導者研修会を開催しました。

今年度は、国立民族学博物館 人類基礎理論研究部 教授 広瀬 浩二郎様に講演「ユニバーサル・ミュージアムから人類の未来へ」とワークショップ「さわって楽しむ世界旅行」をお世話になりました。

講演では国立民族学博物館の紹介に始まり、御自身の経験や研究をもとに視覚障害の有無を異文化と捉えることや、自分の得意を生かして人生を歩むこと、視覚だけでなく五感を通して物事を想像したり味わったりする大切さ等についてお話しいただきました。

また、ワークショップでは、参加者が、触れる・聴く・嗅ぐといった五感を働かせながら楽しく想像を膨らませる活動を実施いただき、誰もが共に学び合える充実した研修会となりました。

参加者には、この研修会をとおして得られた学びを、誰もが心豊かに暮らし、自分らしさを生かしながらお互いに支え合えるまちづくりにつないでいただけることと期待しています。



《参加者の感想》

- ・視覚障害を異文化と捉え、邁進される考え方がとても素敵で感動しました。
- ・国立民族学博物館にぜひ行かせていただきたいと思いました。
- ・見えなくても、考える楽しみがあると気付くことができました。
- ・見て簡単に分かるのではなく、しっかり手で触って、想像を巡らすという日常で忘れていた大切な感覚が体験できました。
- ・実際に体験することで、視覚に障害がある方の感覚を身近に感じ、ユニバーサルな社会について改めて考えるきっかけになりました。

